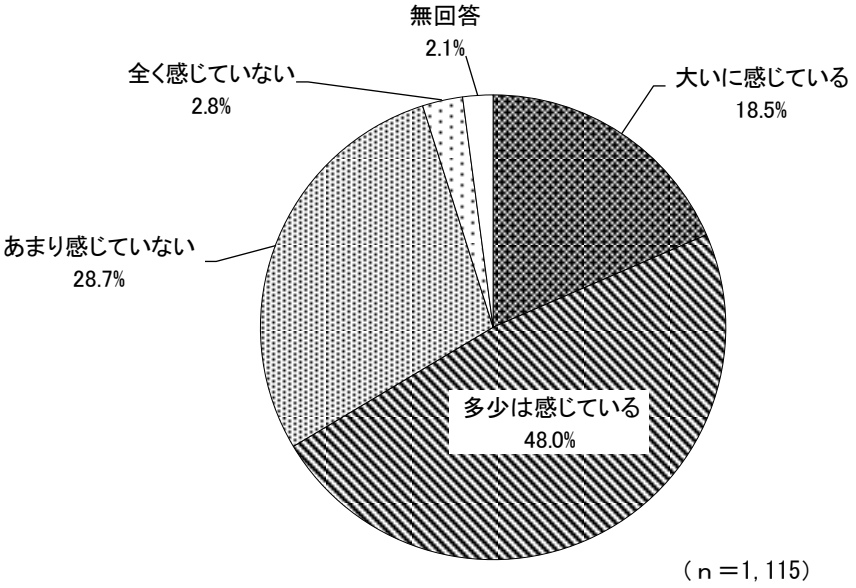
13　食の安全・安心について

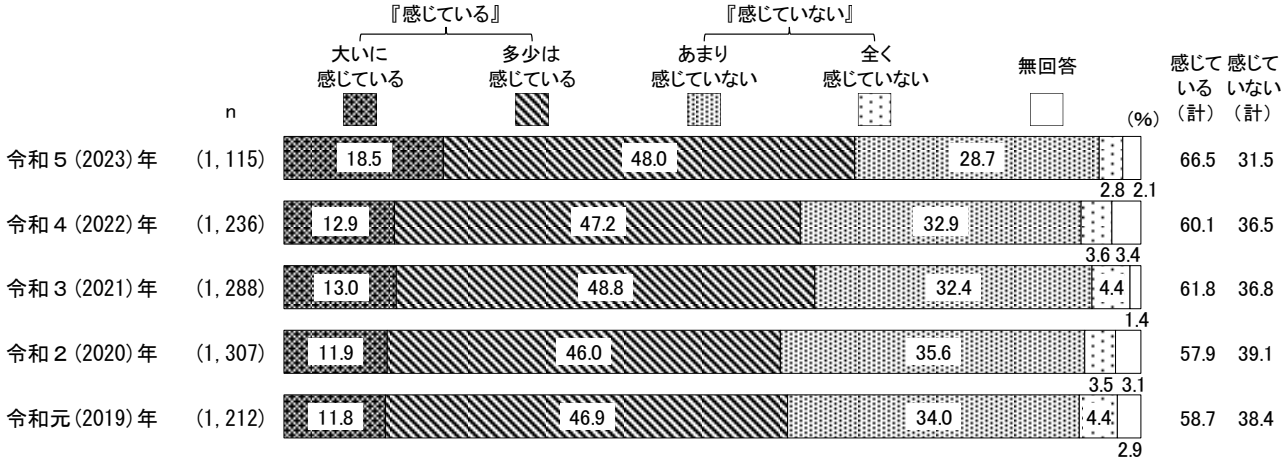
（１）食品の安全性に対する不安

問36　あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,115］

１	大いに感じている	18.5%	３	あまり感じていない	28.7%
２	多少は感じている	48.0	４	全く感じていない	2.8
				（無回答）	2.1

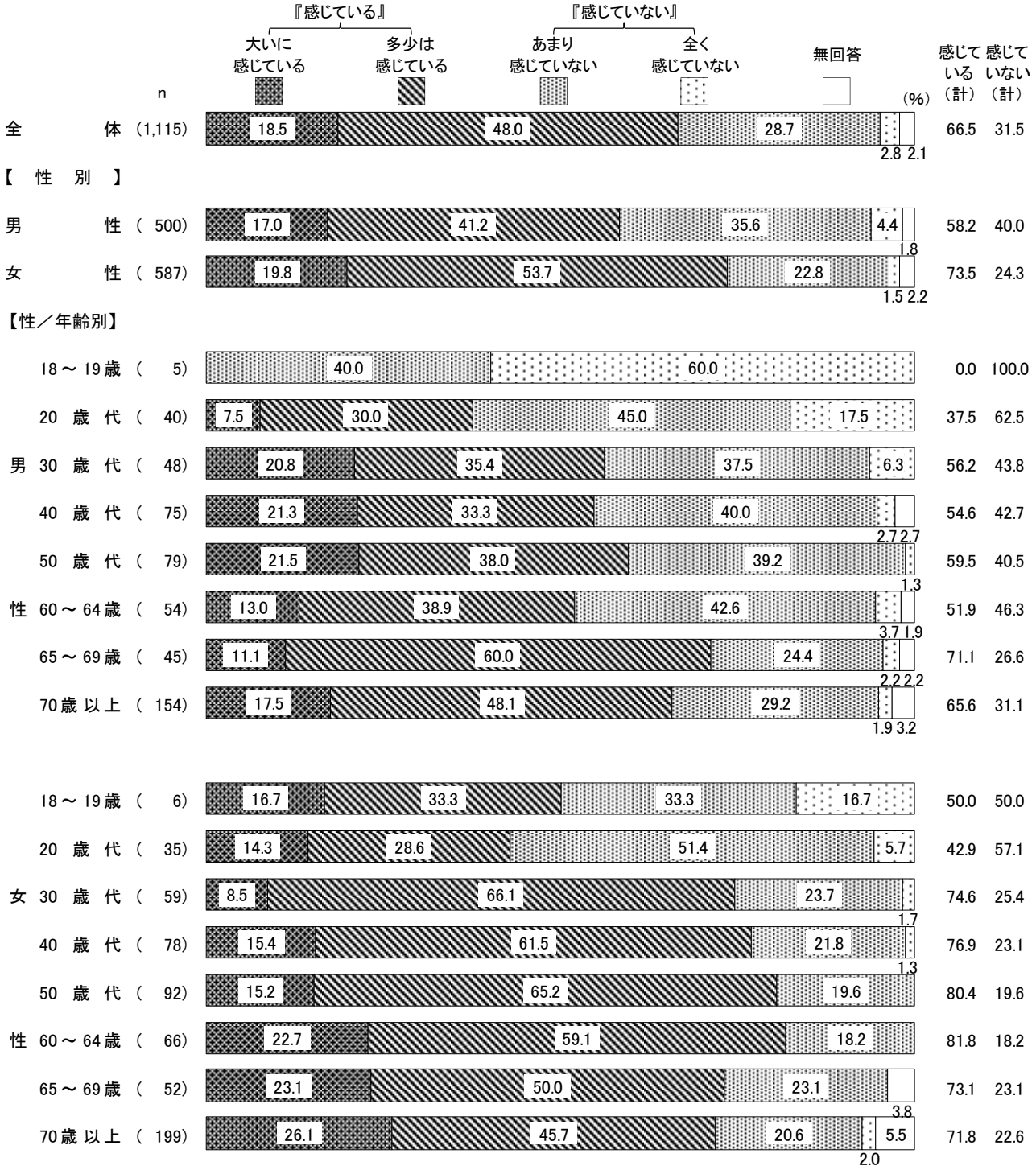


全体でみると、「大いに感じている」（18.5%）と「多少は感じている」（48.0%）の２つを合わせた『感じている』（66.5%）が６割台半ばを超えている。一方、「あまり感じていない」（28.7%）と「全く感じていない」（2.8%）の２つを合わせた『感じていない』（31.5%）が３割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、『感じている』が前回（令和４(2022)年）より6.4ポイント増加している。一方、『感じていない』が前回（令和４(2022)年）より5.0ポイント減少している。

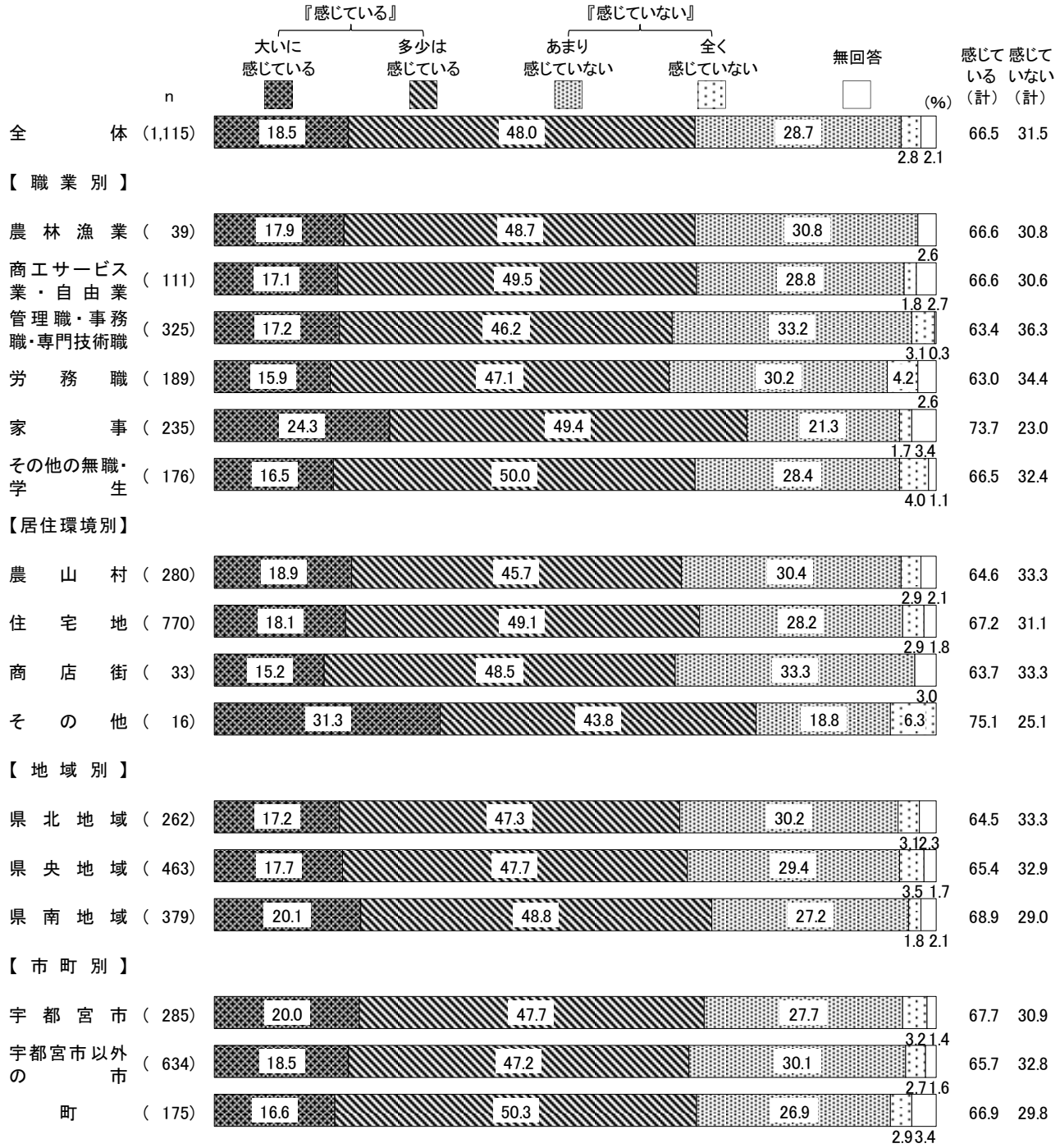
［性別・性／年齢別］



性別でみると、『感じている』では〈女性〉（73.5%）が〈男性〉（58.2%）より15.3ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉（40.0%）が〈女性〉（24.3%）より15.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『感じている』では〈女性60～64歳〉が81.8%、〈女性50歳代〉が80.4%、〈女性40歳代〉が76.9%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性20歳代〉が62.5%、〈女性20歳代〉が57.1%、〈男性60～64歳〉が46.3%、〈男性30歳代〉が43.8%、〈男性40歳代〉が42.7%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、『感じている』では〈家事〉が73.7％と高くなっている。

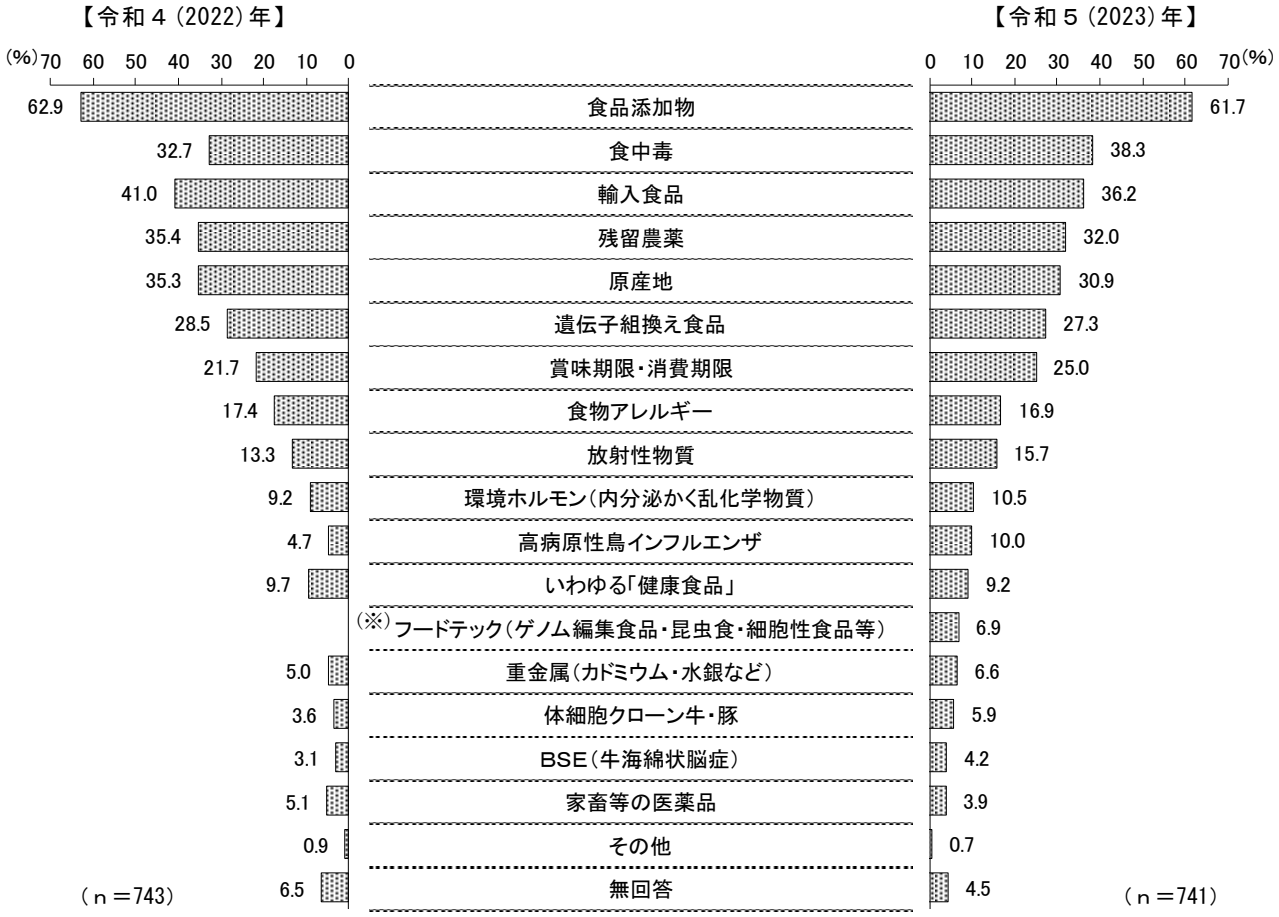
居住環境別・地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）食品の安全性について不安に思うもの

（問36で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください）

問37　あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から４つまで選んでください。　［ｎ＝741］

1	食中毒	38.3%	11	輸入食品	36.2%
2	食品添加物	61.7	12	ＢＳＥ（牛海綿状脳症）	4.2
3	いわゆる「健康食品」	9.2	13	高病原性鳥インフルエンザ	10.0
4	放射性物質	15.7	14	体細胞クローン牛・豚	5.9
5	重金属（カドミウム・水銀など）	6.6	15	家畜等の医薬品	3.9
6	残留農薬	32.0	16	環境ホルモン(内分泌かく乱物質)	10.5
7	食物アレルギー	16.9	17	フードテック（ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等）	6.9
8	賞味期限・消費期限	25.0			
9	原産地	30.9	18	その他	0.7
10	遺伝子組換え食品	27.3		（無回答）	4.5

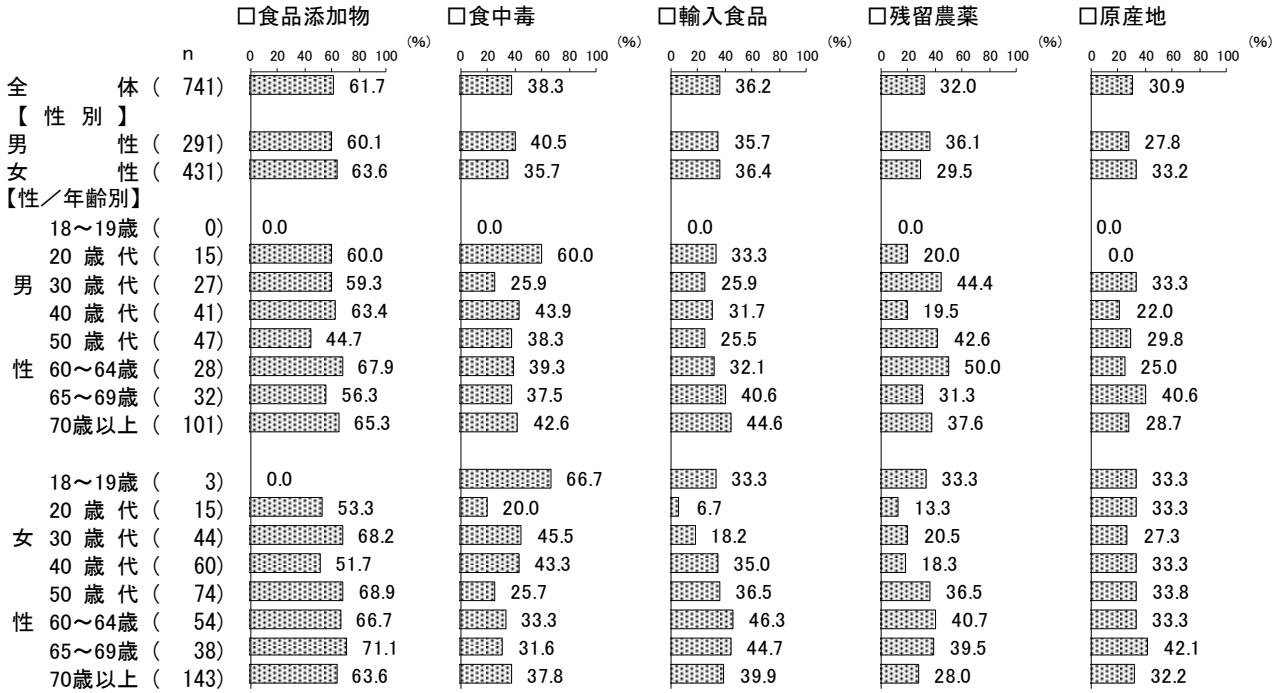


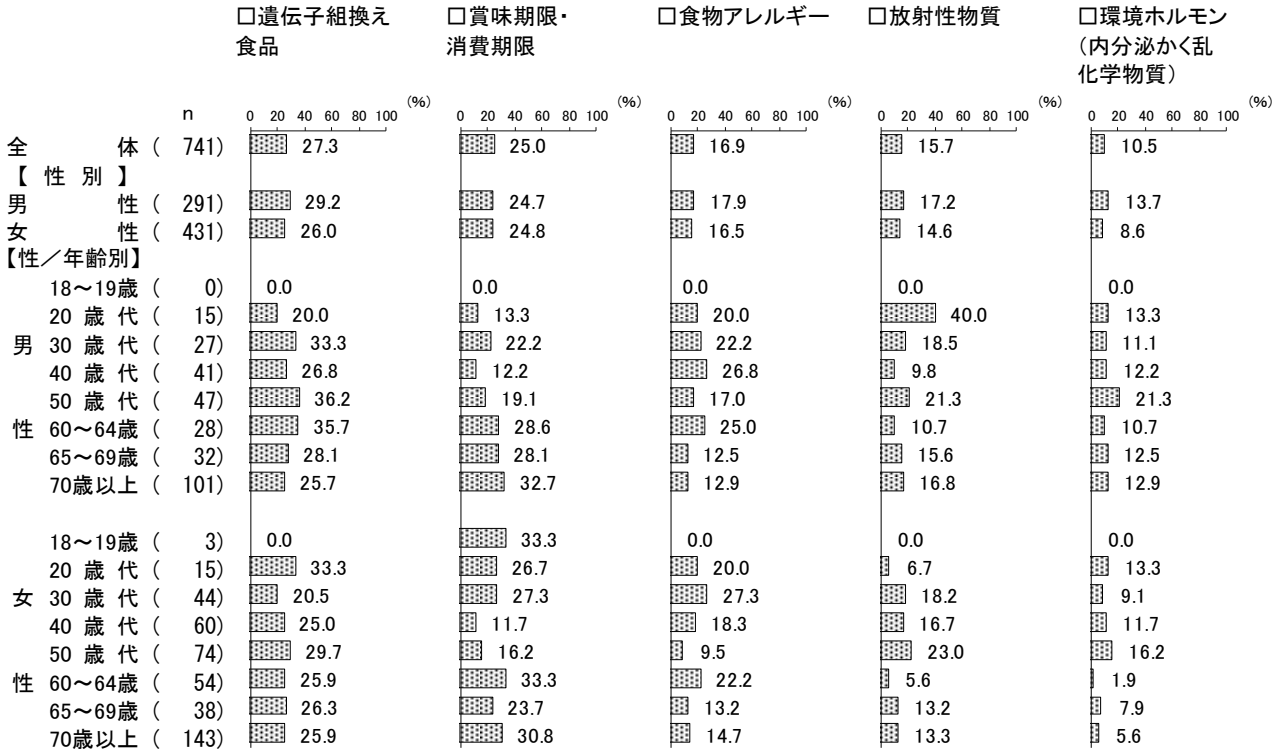
(※)　「フードテック（ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等）」は令和５年で追加された項目。

全体でみると、「食品添加物」（61.7%）が６割強で最も高く、次いで「食中毒」（38.3%）、「輸入食品」（36.2%）、「残留農薬」（32.0%）、「原産地」（30.9%）の順となっている。

前回（令和４(2022)年）の調査結果と比較すると、「食中毒」が5.6ポイント、「高病原性鳥インフルエンザ」が5.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「輸入食品」が4.8ポイント、「原産地」が4.4ポイント、それぞれ減少している。

［性別・性／年齢別］（上位10項目）

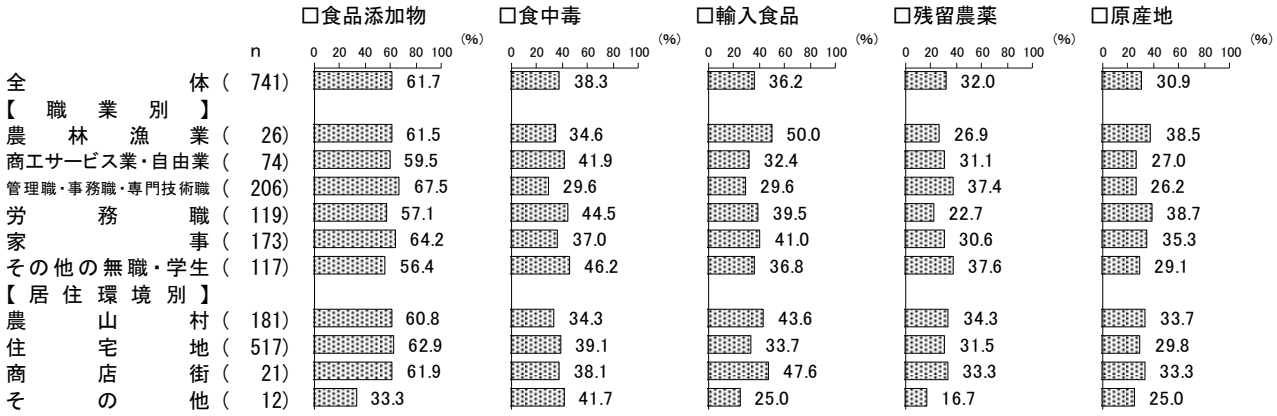


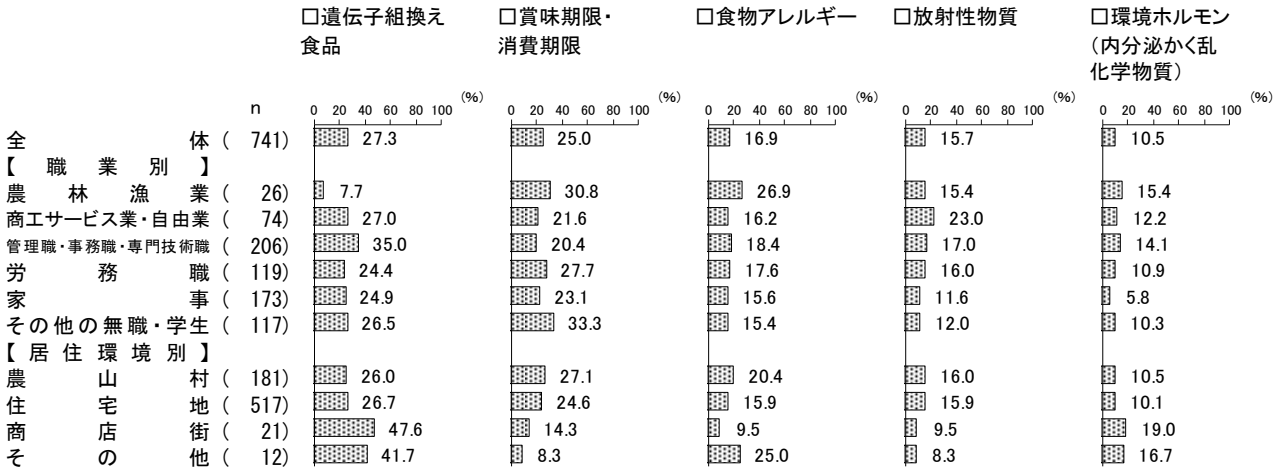


性別でみると、「残留農薬」では〈男性〉（36.1％）が〈女性〉（29.5％）より6.6ポイント高くなっている。「環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）」では〈男性〉（13.7％）が〈女性〉（8.6％）より5.1ポイント高くなっている。一方、「原産地」では〈女性〉（33.2％）が〈男性〉（27.8％）より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「食中毒」では〈男性20歳代〉が60.0％と高くなっている。「輸入食品」では〈女性60～64歳〉が46.3％と高くなっている。「残留農薬」では〈男性60～64歳〉が50.0％と高くなっている。「原産地」では〈女性65～69歳〉が42.1％と高くなっている。「食物アレルギー」では〈女性30歳代〉が27.3％と高くなっている。「放射性物質」では〈男性20歳代〉が40.0％と高くなっている。「環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）」では〈男性50歳代〉が21.3％と高くなっている。

［職業別・居住環境別］（上位10項目）





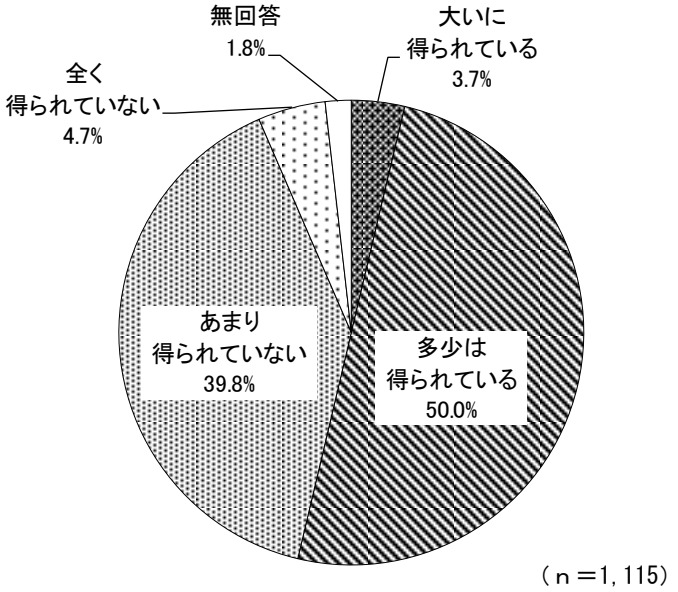
職業別でみると、「食品添加物」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が67.5％と高くなっている。「食中毒」では〈労務職〉が44.5％と高くなっている。「輸入食品」では〈農林漁業〉が50.0％と高くなっている。「残留農薬」では〈その他の無職・学生〉が37.6％と高くなっている。「原産地」では〈労務職〉が38.7％と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が35.0％と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉が33.3％と高くなっている。「食物アレルギー」では〈農林漁業〉が26.9％と高くなっている。「放射性物質」では〈商工サービス業・自由業〉が23.0％と高くなっている。

居住環境別でみると、「輸入食品」では〈商店街〉が47.6％と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈商店街〉が47.6％と高くなっている。「環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）」では〈商店街〉が19.0％と高くなっている。

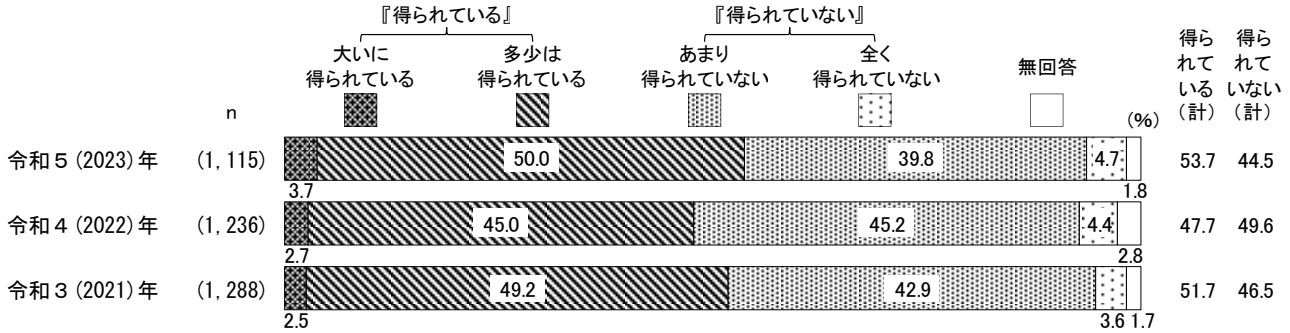
（３）食の安全に関する情報を得られているか

問38　あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると感じていますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,115］

１	大いに得られている	3.7%	３	あまり得られていない	39.8%
２	多少は得られている	50.0	４	全く得られていない	4.7
				（無回答）	1.8

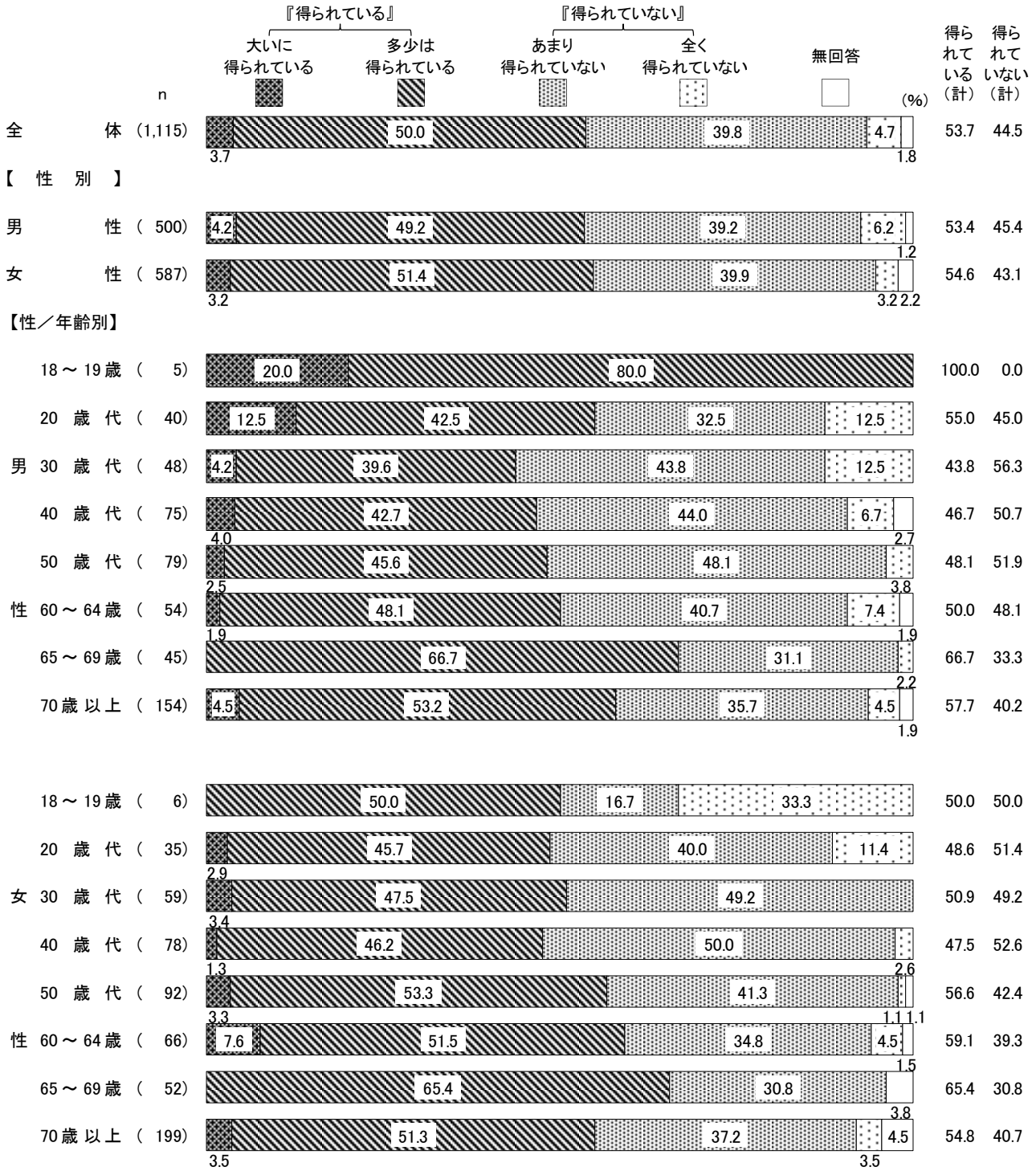


全体でみると、「大いに得られている」（3.7%）と「多少は得られている」（50.0%）の２つを合わせた『得られている』（53.7%）が５割台半ば近くとなっている。一方、「あまり得られていない」（39.8%）、「全く得られていない」（4.7%）の２つを合わせた『得られていない』（44.5%）が４割台半ば近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『得られている』が前回（令和４(2022)年）より6.0ポイント増加している。一方、『得られていない』が前回（令和４(2022)年）より5.1ポイント減少している。

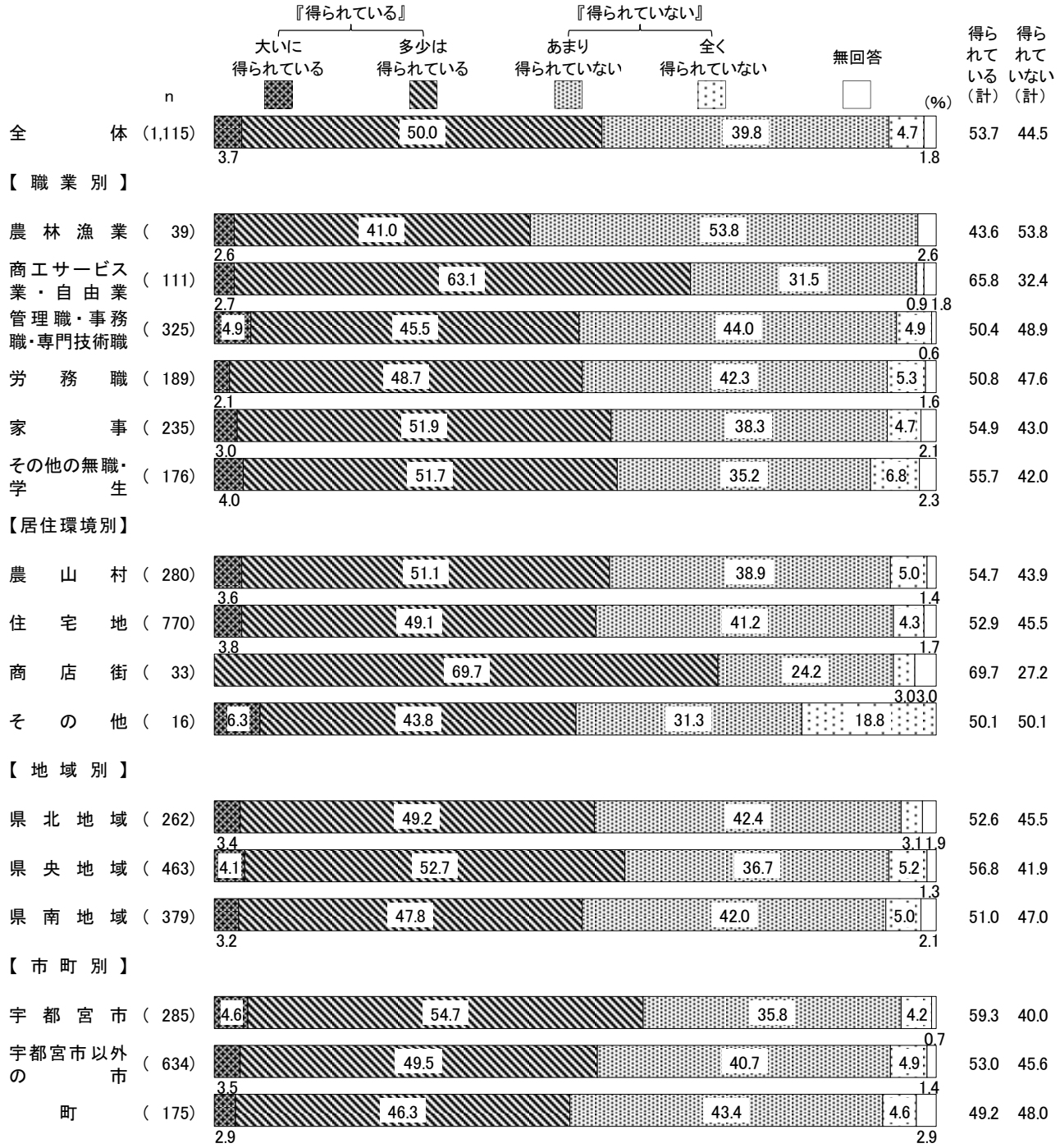
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『得られている』では〈男性65～69歳〉が66.7％、〈女性65～69歳〉が65.4％と高くなっている。『得られていない』では〈男性30歳代〉が56.3％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、『得られている』では〈商工サービス業・自由業〉が65.8％と高くなっている。『得られていない』では〈農林漁業〉が53.8％と高くなっている。

居住環境別でみると、『得られている』では〈商店街〉が69.7％と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、、『得られている』では〈宇都宮市〉が59.3％と高くなっている。